

## 何か注意することは？

### ⊕ 全般

- 本マニュアルに書かれた用法・用量に準じて処理することを勧めます。ただし、地域、季節、場所によって、土壌還元の程度に違いが出ます。結果として土壌病害虫等の密度低下(土壌の消毒効果)に差が生じることがあります。
- この技術を利用して、先に記述したような作物でフスマや糖蜜のような土壌還元作用による土壌の消毒効果を確認していますが、土壌や処理後の環境条件によっては、消毒の程度が十分でないことがありますので、事前に試してから使うか、経験のある方に相談してからお使いください。
- 水はけがよすぎる土壌での利用は避けてください。そのような場所では熱水消毒が有効です。
- 他の技術(熱水消毒など)と組み合わせるとさらに有効になります。熱水処理との組合せでは、熱水土壌消毒用のボイラーで用水を50℃に加熱し、その配管の途中でエタノールを所定濃度になるよう工夫して混入します。

### ⊕ 購入

- エタノール資材であれば何れも土壌還元作用はありますが、以下のことに注意してください。
  - エタノール等含量率が60重量%以上の資材は消防法に従う。
  - 資材によっては含まれる不純物による悪影響が懸念される。
- 由来や成分が明記しており、毒性が高い不純物が含まれていない資材を使うのがよいでしょう。

### ⊕ 保管

- エタノール等含有率が60重量%未満の資材は、危険物に該当しませんので、危険物倉庫のような保管設備は不要です。
- ただし、エタノールを多く含む資材は直射日光を避け、風通しがよく、盗難や誤使用を避けるためにも、施錠できる保管庫に保管しましょう。

## ✦ 気分が悪くなったとき

- 希釈前：濃度が高いため、誤飲したり、眼に入ったりしないように、取り扱いには十分注意しましょう。もしも、そのようなことが生じたら、十分洗浄後に医師に相談しましょう。
- 希釈後：2%以下に薄めた低濃度エタノールは、一般に誤飲や直接目や皮膚に触れることで問題はありませんが、個人差もありますので、気分が悪い等、何か異常を感じたら、すぐに医師に相談しましょう。
- 処理後：気分が悪くなったら、すぐに医師に相談しましょう。

## ✦ 作業前

- 希釈水：病虫害や雑草の混入を避けるため、最低でも農業用水基準を満たしている水を使いましょう。
- 処理する者（補助を含む）：必要に応じて防護具を装着し、希釈する際には手袋をご使用ください。

## ✦ 作業中

- 周辺環境への配慮：多量の水を処理しますので、周辺の田畑、住居、河川・湖沼等に流れ込まないようにしてください。流れ込みそうになったら、すぐに処理を中止してください。
- エタノールは引火性がありますので、換気を良くし、火気に十分注意してください。

## ✦ 作業後

- 残液の処理：一旦希釈したエタノールの水溶液は使い切るようにしてください。
- 空容器の処理：エタノールには引火性がありますので、若干残ったエタノールが空容器内で蒸発して、引火する危険性があります。従って、ご面倒でも、使い終わった空容器は、水で洗浄してください。
- 空容器の処分：空容器は、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って処分を行ってください。